広報せき SEKI

Seki Gocoro

2022 08

No.1738

巻頭特集 関の星空

この夏、星に会いに行こう！

関心

Seki Gocoro 08

SEKI City Community Magazine

TOPICS

関市暮らし応援プレミアム付商品券 10-11P
議会だより 12-15P
INFORMATION 17-36P
子育てカレンダー 39P

ペルセウス座流星群の比較明合成写真　写真提供：小川伸二さん

どんな星座が見えるかな？夏の星空を眺めよう！

関の星を大特集！

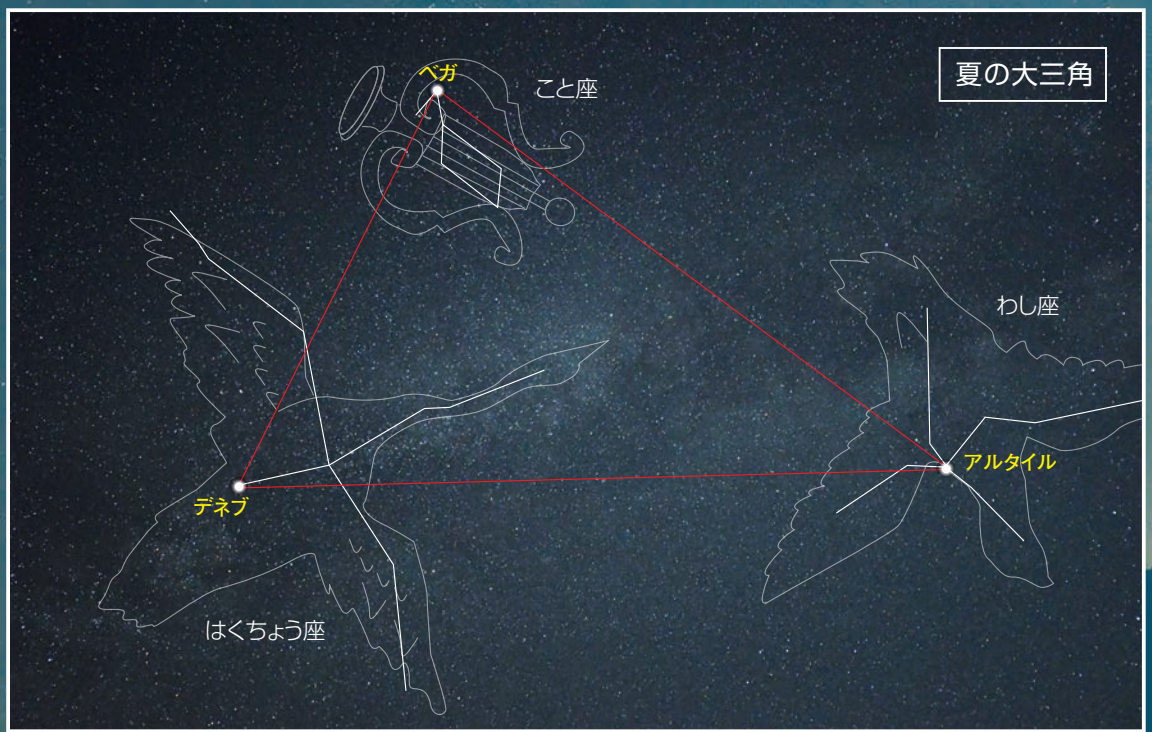
夏休みの夜の楽しみと言えば、星空を眺め星座を探すことです。明かりのない高い場所へ行けば、天の川を眺めることができます。関市でも雲や月の出ていない夜には、きれいな星たちが私たちを楽しませてくれます。

この季節の星空と言えば「夏の大三角」です（下図参照）。

夏の夜空の目立つ星たちの中で、七夕で知られる「こと座のベガ（織姫）」、「わし座のアルタイル（ひこ星）」、そして「はくちょう座の尾に輝くデネブ」の3つの星を結んでできるのが「夏の大三角」です。

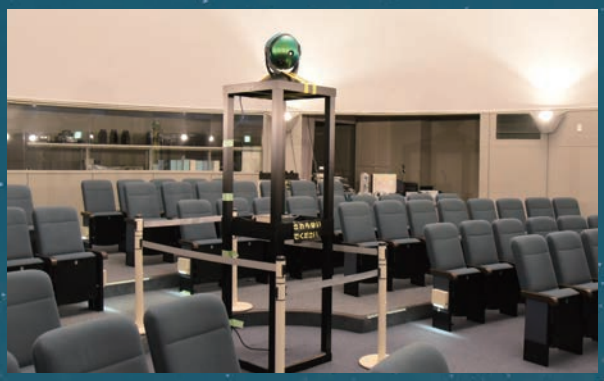
一等星で明るいため、どこからでも見つけることができますので、まずはこの三角形を探してみましょう。

今年の夏は、少し手を止めて、星を見上げてみてはいかがですか。



関市公式YouTubeの特集映像

夏のプラネタリウム観覧



まなびセンター
横田　稔 さん

観望会にはボランティアの愛好家の方々が、それぞれの得意分野に合わせた多種多様な望遠鏡を持って集まります。星座、星雲、星団などいろいろ楽しむことができるのが特徴です。

まなびセンター
奥田　めぐみ さん

季節ごとに見える星が違うので、毎回新たな発見があります。子どもたちも大喜びです。プラネタリウムの満天の星空は、一度味わったらやみつきになります。

関のプラネタリウムは、メガスターゼロという約200万個の星を映し出すことができる機械で投影しています。頭上に200万個の星がキラキラ輝く光景は感動的で、大人から子どもまで楽しんでもらえます。

プラネタリウムの開催は、毎月2日間（1日4回投影）を予定しており、いろんなテーマを取り上げていますが、なるべく開催日付近で起こる天体イベントの話を中心にお伝えしています。

毎年8月のペルセウス座流星群を楽しみにしている人が多くいらっしゃいます。今年は13日未明が見ごろとなり、1時間に30個程度見られるのではないかと予想されていますが、残念ながら前日12日が満月のため、13日未明も月明りで見づらくなると考えられます。

8月のプラネタリウムは、13日（土）と14日（日）は「小惑星と恐竜」と題して、中生代白亜紀に地球上から姿を消した恐竜をはじめとする大型の生物たちと小惑星との深い関係について解説します。

また、20日（土）と21日（日）は「9月10日は中秋の名月」と題して開催します。「中秋の名月」は旧暦の8月15日で、今年の暦では9月10日がそれにあたります。お月様にごちそうを供えて月見の行事をする習慣など、中秋の名月について詳しく解説します。

プラネタリウム観覧はこちら▶

市民天体観望会「星を学んで夜空を楽しもう」

毎月開催している市民天体観望会。プラネタリウムで星空について学んだ後は、学習情報館屋上の天体観測広場で、関の星空を観望できます。ボランティアの方々のいろんな望遠鏡で星座、星雲、星団を見つけ、その解説を聞くことができます。

【 8月の観望会 】

8月13日（土）午後7:00～　テーマ「夏の大三角を見よう」
8月20日（土）午後7:00～　テーマ「夏の星雲・星団を見よう」

〈参加料〉
- 大人 …… 300円
- 中学生以下 …… 無料
- 障がい者と介助者1人 …… 無料
- 65歳以上の人・高校生 …… 半額

武儀小学校 星空観察会

武儀東小と西小が統合される前から開催してきた「星の観察会」は、昨年開校した武儀小でも、引き続き開催されています。今年度も「親子で星座の話を聞いて星を観察しよう」をテーマに、ボランティア講師から星座の解説を聞いた後、実際に星の観察を行います。

観察会開催前に参加する6年生の4人（矢島萌々香さん、西部杏さん、三輪奏斗さん、森光菜さん）に話を聞きました。

矢島さんは「過去に参加した観察会で、木星を見て星に興味を持ちました。空に浮かぶたくさんの星を見てみたい」と観察会を楽しみにしています。

森さんは「さそり座にまつわる神話が好き。惑星のことも調べてみたい」と興味が尽きない様子。

西部さんは「天の川を見るのが楽しみ。北海道の有名な星空スポットへも行ってみたい」と夢を話しました。

三輪さんは「星図を持って家族と山に登り星を見たことがあり、とてもきれいな星空に感動しました。今回は、夏の大三角を見つけたい」と意気込みました。

今年の観察会は7月23日に開催。実際に自分の目で星を見る、こういった体験を通して、星の魅力が多くの子どもたちに伝わっていくことでしょう。

観察会に向けて星座を学ぶ４人

カメラ初心者必見！星空撮影術

広報係の記者は、イベント現場に出向き写真を撮ることが多いのですが、その中でも難しいのが、花火、鵜飼、星などの灯りを撮ることです。

そこで今回は、関市内で写真事務所を営む小川伸二さんに、簡単な撮影の方法を教えてもらい、新月の夜、市内の撮影スポットを訪れ、星空撮影に挑みました。

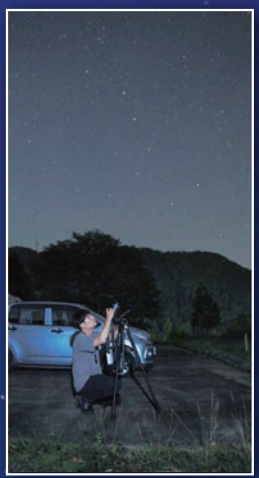
今回使用したのは広報係にあるデジタル一眼レフカメラ（ニコン製）です。三脚でカメラを固定し、「はくちょう座」を狙います。カメラの設定は次のとおり。

①撮影モードを「マニュアル（M）」に設定
②ISO感度の設定（今回は新月で真っ暗だったため3200に）
③絞り値（F値）を開放で設定（今回はF1.8）
④シャッタースピード（露出時間）を設定（今回は8秒）
⑤ピントは「∞」に合わせる

たったこれだけ。ここまでは一人でもできましたが、頭上に輝く星々の中から「はくちょう座」を見つけ、画角に収めることは初心者ではできません。

小川さんに星座の解説を受けながら、なんとか撮影にこぎつけ、「はくちょう座」をとらえることができました。

カメラの設定方法を説明する小川さん



はくちょう座を狙う本紙記者

その後は、広角レンズに変えて夏の大三角、北極星、天の川を撮影。徐々に腕も上がり、初心者としては納得の一枚が撮れました（P37に掲載）。

すっかり星空撮影の魅力にはまってしまい、次の新月の日はどこで撮ろうかと今からワクワクしています。

※この撮影方法はあくまで入門編です。図書館に星空撮影方法をまとめた書籍がありますので参考にしてください。

“街の星博士”吉田桂一さん

関市の稲口に、アマチュア天体観測の世界では名の知れた星博士がいます。

その人の名は、吉田桂一さん。日本の名だたる天体愛好家と交流があり、自身も若いころから天体観測を極め、関市のプラネタリウムの開設時には職員として関わり、自らナレーションを考え解説を務めました。

吉田さんが、星空に興味を持ったきっかけは、小学生のころ親に買ってもらった「宇宙のなぞ」という本との出会いでした。

その本をすり切れるまで何度も何度も読み、星について学び知識を吸収しました。中学生のころ、イケヤ・セキ彗星の発見を新聞で読んだことで、彗星の魅力にはまっていきます。

高校生のころから望遠鏡、カメラなどの装備を整え、夢中になって彗星を追いかけました。

アマチュアでも専門家の領域に参加できる楽しさもあり、寝る間も惜しんで星空を見つめ続けました。

しかし、世界的なデジタル化の流れで、アマチュアのコメットハンター（彗星探索家）の入る余地はせばめられていきます。

その後は、放送大学大学院で国立天文台長を務めた海部宣男教授の「通称：銀河ゼミ」で天体物理学を学び知見を深めました。

吉田さんの今後の目標は「電視観望システムを構築することです。これは、星空の光を蓄積するカメラで撮像し、ライブ画面で見るものです。アンドロメダ大星雲など迫力ある映像が見られます。以前から簡単なシステムは知られていましたが、最近になってカメラの性能が格段に向上し、天文雑誌でも紹介されたこともあり、関心が高まっています。今はそのシステム構築を目標に、進んでいるところです。」

いくつになっても星空に恋焦がれ追い求め続ける、関市の星博士の一人です。

愛用の望遠鏡を前に星図を使って説明をする吉田さん

“星取り山”洞戸保育園

星取り山は、洞戸保育園の隣にある小さな山です。今から50年ほど前、まだ洞戸小が現在の保育園の場所に建っていたころ、学校を挙げて体力づくりのためにこの山へ登ることを競い合っていました。

昼休みになると★（星）マークの紙が入った箱が山頂に置かれ、登ってきた子どもたちが紙を取って登山数を競い合いました。そこから星取り山と言われたとも。今は、園児たちが登って自然を体験しています。この山は、洞戸の子どもたちには、一番名の知れた山と言えるでしょう。園児たちに話を聞いてみると「星取り山であそぶととても気持ちいい」「雨が降ると、星取り山がキラキラしてキレイ」「星取り山でお弁当を食べるのが好き」など、今も、園児たちに愛され続けています。星取り山は、今日も優しく子どもたちを見守っていることでしょう。

園庭から見える星取り山

星取り山に登りお弁当を食べる園児